

令和元年度学校評価シート（自己評価）

菩提樹の森 幼稚園

1、園の教育目標

仏教の大慈大悲の教えを基本に、学校教育法及び幼稚園教育要領に則り、幼児の心身の健全な発達の助長をめざす。

○生命（いのち）を尊重し、正しきを見て絶えず進む子どもを育てる。

○ものごとを自主的、創造的に考えていく子どもを育てる。

○心身ともに健康で、何事も最後までやり遂げる子どもを育てる。

2、具体的な目標や計画

新幼稚園教育要領の施行から3年が経過した。今年度も評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することにより、園長はじめ幼稚園教諭自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容の振り返りや改善、施設環境の改善、地域の中の幼稚園としていかなる存在かを客観的に観て、主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
家庭、地域、関係 機関への情報発信について	A	幼稚園ホームページを開設し10年余りが経過した。過去2回のリニューアルを行ってきたが、レイアウトが古くなってきたのと、アクセス数の減少が見られたのでホームページのリニューアルを行った。保護者家庭や地域社会への幼稚園 教育に対する理解を深める取組みをしている。毎月の教育内容、指導内容をお便りで保護者に伝えている。保育参観や懇談会は、なるべく参加しやすい日程を設定し、定期的を実施している。
教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解	B	毎週1回水曜日の職員会議や行事前の打ち合わせ、日々の打ち合わせ等で教育課程の編成（指導計画）や実施法（年案・月案・週案）について話し合い、教職員間の共通理解を図るために努力している。また、行事後の反省会で振り返りを速やかに行い翌年度の保育につながるよう努めている。園が定めている教育課程は、健康・人間関係・環境・言葉・表現について達成する目標をもち、編成するよう努めている。
幼稚園と小中学校 との円滑な連携	B	・小学校の教育内容について理解したり園児の様子を知ってもらう為に、幼保小中連絡会や施設見学会、年長児が近隣小学校との学校見学会を行い、行事の見学に行ったりしている。中高生の保育体験を受け入れ、交流を行っている
教員の資質向上 研究・研修の充実	A	夏季休園中に各自課題を持っている研修会に参加し、自己研鑽に努めている。園内研究保育の実施により一人ひとり指導力が向上し、保育の見る目も養うことができた。研究会や研修会に参加し、職員の資質向上に役立てている。

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	<p>概ね全ての項目で評価項目を実施することができた。教職員一人ひとりが評価項目に対し積極的に取り組む姿が見られた。取り組むべき課題について全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し取り組み状況を話し合うことで園としての方針を明確にすることができ、それを実践する礎とすることができた。今年度初めて朝霞第一小学校一年生と交流会を持つことができたが、例年行っている朝霞第四小学校の学校見学は新型コロナウイルス感染症予防の為残念ながらキャンセルとなってしまった。園児の手洗いうがい体調管理は covid-19 の影響が積極的に実施されインフルを含む流行性疾病预防に努めることができた。配慮が必要な園児の対応も関係施設とカンファレンスを設け対応することができ、適切な指導ができた。今年度も行事の実行後速やかに反省会を開催し次年度への課題を教職員で共有することができた。次年度以降も covid19 の対応が急務。今年度の評価をふまえて、次年度以降の課題に繋げていくことが重要である。</p>

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

具体的な取り組み方法
<p>教職員の危機管理意識と安全管理体制全体の更なる見直しと改善。園または教職員にとって必要な研修内容を検討し、計画的に園内外の研修に取り組むことで更なる教職員の資質向上を図る。教職員全員参加での園内研修を行ない共通課題を見つけ改善に努める。保育の取組みについて『保護者との連携』を大切に、更なる工夫を行い信頼関係の向上に努める。各家庭の価値観の多様化により、参観、行事等に対する意見が年々多様化してきているので個別の配慮が特に大切になってきていると感じる。特別扱いするのではなく、多種多様な課題に寄り添い対応することが求められていると感じる。・園外活動の機会を増やし、身近な恵まれた自然（川などの水場）地域の方々と触れ合う活動を更に充実させたい。更なる保育環境の充実に順次努めていく。また更なる保育環境の充実に順次努めていく。</p>